

2021 年 東京外国語大学（前期日程）【英語】 解答速報

2021 年 2 月 25 日 施行

1 長文論述問題

1.

【解答例 1】

挨拶を 2 回すると「少し前に会ったことすら忘れられた」という不快感を相手に与え兼ねず、これを社交的なミスだと感じるから。(59 字)

【解答例 2】

同じ人に 2 度挨拶をしたことで、その人の存在と役割の重要性を認めていないかのような失礼な態度をとってしまったと思ったから。(60 字)

2.

【解答例 1】

別れのあいさつは、会う時のそれと違って、同じ人に繰り返し言っても良いということ。(40 字)

【解答例 2】

別れの挨拶については複数回同じ相手に言ったとしても失礼にはあたらないということ。(40 字)

3.

【解答例 1】

オバマ大統領が演説でその時の重要性を表すのに同じ様な意味の表現を繰り返したように、同じことを指し示す表現を 3 回用いて聞く人に強い印象を残そうとすること。(76 字)

【解答例 2】

トニー・ブレアが「教育、教育、そして教育— 3 つの最も優先順位の高いものである」と述べたように、話者が言葉を 3 回繰り返すことで印象を残そうとするよく使われる手法。(80 字)

4.

【解答例 1】

ある社員が定刻より遅れて午前中の遅い時間に出社したような場合に、同僚がからかう意味で、または上司が皮肉を込めて使う。(57 字)

【解答例 2】

定時の 9 時から大幅に遅れた 10 時に出社した人などに対して、同僚がからかいの意味を込めたり、上司が皮肉を込めたりする場合。(59 字)

5.

【解答例1】

打ち解けた間柄では、「おはよう」に対して「やあ」などしばしば異なる表現の挨拶が交わされるということ。(50字)

【解答例2】

知り合いどうしの気さくなあいさつには、全く同じ語句のあいさつが交わされるとは限らないということ。(48字)

6.

【解答例1】

多くの聴衆に対して講演者が発する挨拶は、聴衆にそれへの返答を期待したものではなく、単に慣習に則った儀礼的なものに過ぎないということ。(66字)

【解答例2】

多数の人が集まる講演などでする挨拶は、慣習的な儀礼にすぎないので、返答を期待すべきでなく、返答した場合は奇異な感じがしてしまうということ。(69字)

2 長文空所(単語)補充(語形変化あり) → 解答不要

3 長文空所(欠文)補充

① D ② A ③ C ④ H ⑤ G ⑥ I ⑦ E ⑧ B

4 リスニング：省略 5 リスニング：省略 6 リスニング＋英作文：省略

《講評》

全体

今年度はコロナ禍の影響で試験時間が 60 分短縮されたため（150 分→90 分）、相応の問題量の削減がありました。従来の問題から具体的に削減されたのは、大問2の「空所補充問題（単語レベル）」と大問6の設問 2（自分の意見を述べる writing）です。したがって、解答すべき大問は以下の通りでした。

大問1「論述問題（長文下線部の内容説明）」

大問3「欠文補充問題（センテンス、またはその一部を補う）」

大問4と5「リスニング問題 6」

大問6「リスニングと英作文の融合問題」

上記いずれも、解答が課せられたものは従来の出題形式・傾向から大きく変わったところはありません。ただし、大問6の設問 2（聴いた内容について意見を述べる writing）など、外大に特徴的で十分な対策が必要な問題が削除されたことで、そのための準備が例年と同じようには報われなかった受験生もいるかもしれません。

来年度以降については、コロナ禍が収束に向かえば、従来の大問数と時間に戻ることが予想されます。延期された全学部でのスピーキング試験も適宜開始されるでしょう。

各大問

1の記述式問題は、例年通り内容説明の設問（小問）が6問でした。問題形式や書く分量も大きな変化はありませんでした。ただし、今年度の出題文は、テーマが日常的なもの（英語圏での挨拶をめぐる考察）であり、語彙も平易で読み易く、解答し易い設問が多かったと言えます。

設問の内容自体も、マイクロコンテキスト（＝下線部の前後の狭い文脈）の範囲で解答できるものが中心です。関連する箇所を見つけ易いはずですが、大学受験レベルの語彙・構文・文法力をしっかりと身に着けること、英文のテーマを理解して論旨展開を迫るための思考力を高めておくこと、この2つが必須です。

それからもう1つ、合格答案に必要な要素は「理解した内容を字数制限内で的確な日本語で表現する能力」です。設問3にある「本文中から例を1つ挙げて…」など、設問の条件をしっかりと満たしながら答えることも重要です。英語の基礎知識と思考力を強化することに加えて、伝えたい内容を過不足のない、分かり易い日本語で表現するための十分な訓練が大切です。

③の欠文補充は、センテンスまたはその一部が抜けた空所を埋める問題です。これも例年通り、8か所の空所に対して9個の選択肢がありました。

①と同様に例年と比較して語彙レベルがあまり高くなく、英文のテーマも近年よく取り上げられるもの（「外来種の増大による生態系への影響」）でした。背景的な知識があればかなり読み易い文章だと言えますが、それだけにケアレスミスをしないようにより慎重な読解が求められます。大きな文脈と近接する文脈の両方をバランスよく把握しながら、空所を埋めるのに適切な内容を推理することが重要です。例年いくつか迷う選択肢がありますが、そういったときは解答保留として読み進み、最終的に消去法によって正解を導く、という方法も有効です。また、一度選んだ選択肢を固定化せず、問題を解き進む過程で試行錯誤しながら最適なものに変えていく柔軟性も大切です。冷静にしっかりと文脈を追うことを心掛け、解答後にパッセージ全体に目を通して、論理的かつ自然な文章の流れになっているかどうかをチェックする時間があれば正解率が高まります。

④と⑤は例年通りリスニング問題です。過去には単語や数字を書かせる記述式が出題されたこともありましたが、今年で4年連続④、⑤共にマルチプルチョイス問題（3択）となりました。一昨年度数年ぶりに「2回」聴くことができる問題が出題されましたが、今年度は昨年同様に④、⑤共に「放送1回のみ」となっています。共通テストのリスニング対策と合わせて、1回で聞き取る力を伸ばすことを意識したトレーニングが望まれます。

⑥は8年連続で「リスニングと英作文の融合問題」です。放送を2回聞いて、それに関する200語程度の英文を書く問題です（放送の他に、参考資料が与えられます）。今年度は時間短縮の影響で従来の、

- 1) 放送内容の要約を英語で書く問題（200語程度）
- 2) 放送内容に関する質問に対して自分の意見を英語で書く問題（200語程度）

のうち、2)が削除されました。

今年度の参考資料は、いくつかの質問と図が書かれている、ごく簡単なワークシートでした。各質問へ順に答える形で英文を書き進めると一定の要約が完成するようになっていきます。資料を有効に活用したいところです。また、資料の図は社会心理学の有名な実験に関するものです。もしこの実験について聴いた（読んだ）ことがあれば図を見ただけで講義内容が推測できるので、背景知識の差が答案の優劣を左右し得る問題とも言えます。

いずれにせよ、「リスニングの内容について、ヒントを参照しながら英語で要約する」という、求められている本質的な能力は例年通りです。限られた時間で各問200語、計400語（本年度は200語）のライティングが求められますので、リスニング力の強化とともに一定の時間内にこのボリュームの語数を書き上げるための十分な準備と訓練が必要です。短期間での対策は困難で、中長期的・日常的な学習が望まれます。